

# 大阪市が廃止検討の野鳥観察施設を「日本野鳥の会」が視察

大阪市の市政改革で廃止が検討されている野鳥の観察施設について、存続を求めている日本野鳥の会が10日、視察を行いました。

大阪南港野鳥園は、大阪市が設置した人工干潟を中心とする野鳥の観察施設で、渡り鳥が生息する世界的に重要な湿地(東アジア・オーストラリア地域の「渡り性水鳥重要生息地」)として登録されています。

現在は市の直轄ではなくNPO法人などが運営にあたっていて、大阪市から人件費を含め年間2300万円が支出されています。

橋下市長が進める市政改革プランでは、税等を投入して継続する合理性が低いとして「存廃も含めて検討する」と位置づけています。

【日本野鳥の会・柳生博会長】

「いろんな生きものがいっぱいいる干潟というものは、『生物多様性とはこういうものだ』というぐらいギュッと固まっている。経済だけで計算してカットしては駄目だ」

視察した日本野鳥の会は、環境の保全は行政が率先して取り組むべきだとして、存続を求めています。

KTV スーパーニュースで放映 (2012.11.10)